

2023年度版

次代を創る人材に――

Since 1863
攻玉社
中学校・高等学校
SCHOOL GUIDE 2023



Gyokusaka

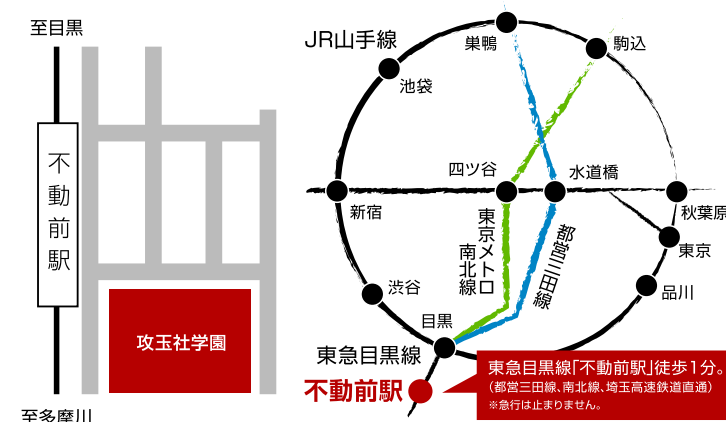
ちよこつと
column
STORY OF GYOKUSAKA
百年の玉坂物語

東急線不動前駅を南東に数十メートル進んだ最初の角を曲がれば、攻玉社学園の正門を真正面に臨む、通称玉坂（およそ100m）がある。攻玉社がこの地に選りおよそ百年。
この坂は数多の生徒の往來を見届けてきた。
時代は遙かに下り、あたりは一変すれども、玉坂の頂に見える攻玉社は、いつの時代も変わらぬ姿で、生徒達を迎え、送り出してきた。
そしていつか、ここから巣立っていった攻玉社男子は、再びこの坂を訪れる時に想う。
変わらぬ母校へのノスタルジーと、
この坂を往來したあの6年間の日々を――。



都心に近い、至便駅から徒歩至近。

【アクセス】



攻玉社
中学校・高等学校

〒141-0031 東京都品川区西五反田5-14-2
TEL: 03-3493-0331 (代表)
FAX: 03-3495-4004

<https://kogyokusha.ed.jp/>

入試に関するお問い合わせは広報企画部まで
TEL: 03-3495-8160 (広報企画部)



創立者、近藤真琴先生が謳った

「誠意、礼讓、質実剛健」の精神を身につけた

攻玉社男子の多くは

やがて明治維新後の変革の時代に

近代日本の礎を造った海軍軍人になっていった。

彼らは、千変万化する大海原の気象状況のように

激動の時代の中で、次代を創り得る臨機応変さ

知性、先見性、粘り強さ

そして責任感を有していた。

そんな海軍ではいつしか

「スマートで、目先が利いて

几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り。」

という標語が謳われるようになるー。

時代は下り、我が国に海軍はなくなっても

近藤真琴先生が謳った攻玉社精神と、船乗りの標語は

今なお、攻玉社男子のアイデンティティとして

脈々と息づいている。

CHANGE IT!

自らが変化し、次代を変革する、攻玉社男子への途一

攻玉社のあゆみ

一八六三年(文久三年)

江戸四谷坂町鳥羽藩邸内に蘭学塾を開く。

創立者、近藤真琴(こんどう・まこと)は

数学・航海術・測量術に秀でた蘭学者であった。

一八六九年(明治二年)

真琴、兵部省に出仕。

築地海軍操練所(のちの海軍兵学校)内に塾を移す。

塾名を「攻玉塾」とする。

一八七一年(明治四年)

芝新銭座(現・浜松町)の慶應義塾跡へ移転。

学科は航海・測量術・和・漢・英・蘭・数が設定された。

一八七二年(明治五年)

文部省より学制が頒布され、私塾から学校として、あらためて開学した。学校の内容は塾則が定められるとともに、

幼年科の設置、教育課程の確立等、全般にわたって近代的

に充実・整備される。

なお、現在の校訓は、この塾則をもとにしたものである。

一八七五年(明治八年)

わが国最初の航海測量習練所(商船学校)を設置。

一八八九年(明治二十二年)

海軍を志願する者のために海軍予備科を設置。

これはのちに海軍中学校と改称され、やがて尋常中学校に合併された。

一九二五年(大正十四年)

9月芝新銭座から、品川区西五反田の現在地に校舎を新築して移転。丘上にそそり立つ白亜の鉄筋コンクリートの校舎が生徒たちの新しい人間形成の場となる。

一九四七年(昭和二十二年)

学制改革により、新制攻玉社中学校発足。

一九四八年(昭和二十三年)

新制攻玉社高等学校発足。

一九六六年(昭和四十一年)

6年一貫英才開発教育を始める。

一九九〇年(平成二年)

国際学級開設。

一九九五年(平成七年)

特別教室を収容する中層棟(現2号館)完成。

二〇〇三年(平成十五年)

新校舎(1号館)完成。

二〇一〇年(平成二十二年)

5・6年次のクラスを8クラス編成とする。

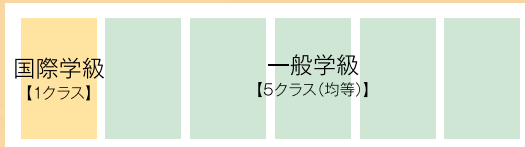
二〇一五年(平成二十七年)

併設型中高一貫教育校に移行。

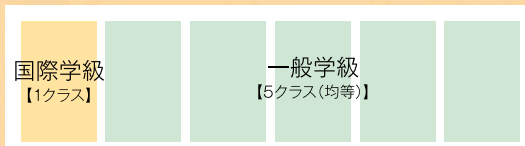
両写真とも
2016年卒業の
「攻玉社男子」
泉 佑馬君です。

生徒の可能性を最大限に引き出す
独自のクラス編成

1年生【中学1年生】



2年生【中学2年生】



一般学級と国際学級の編成で、基礎学力を養成します。

「キミは変われる」



「変わる」ための
チカラを育む。

6年間の生活を見据えて、まずは攻玉社男子としての土台を築いていきます。学びへの姿勢や日々の心構えなど、攻玉社での6年間を通じて着実にステップアップできる基礎的な人間力を鍛えます。

You Can Change.

1～2年生

中学1年～中学2年

STAGE
1



攻玉社男子を育成する

「ボクは変われる」



自ら「変わる」ため。
意識と実力を蓄える。

ステージ2では生徒一人ひとりの個の力を伸ばしていきます。自ら目標を据えて成功をつかみ取る自立心や、壁にぶつかった時にそれを乗り越える精神力・分析力を磨きます。

I Can Change.

3～4年生

中学3年～高校1年

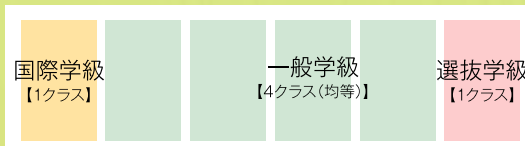
STAGE
2



独自の
6年間

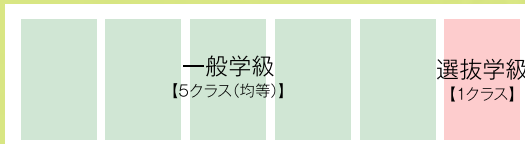
3ステージ プログラム

3年生【中学3年生】



選抜学級を設けて、学習意欲をさらに高めます。

4年生【高校1年生】



国際学級と統合し、新たな刺激を生み出します。

「ボクたちは変われる」



仲間とともに「変わる」。
絆や人間性を育む。

攻玉社男子としての人間形成の総仕上げのステージです。大学進学、そしてその先の将来を明確に意識して、仲間と切磋琢磨しながら、社会に出た後も活躍できる、人間の核となる部分を磨き上げます。

We Can Change.

5～6年生

高校2年～高校3年

STAGE
3



攻玉社では、6年間で2年ずつの3ステージに分割。各ステージごとに異なる独自のクラス編成や指導を施すことで、生徒一人ひとりの学習習慣や意欲、そして学力をスムーズに向上させ、攻玉社男子ならではの一本筋の通ったスマートな人格を形成します。

人格を育て、
未来の可能性を切り拓く。
大切な時期を、攻玉社で。



CHANGE IT!



【2年生 知的好奇心を高め 自ら学ぶ姿勢を持つ】

子 供らしさも少しずつ抜けてい
き、見た目もグッと大人っぽ
く成長するこの時期。生徒の内面でも
目まぐるしい変化が起きています。思
春期の到来とともに、自我の形成が進
むこの時期こそ、ねじれたり曲がった
りすることのない、まっすぐな人格を
形成するためにしっかりとした指導が
重要です。攻玉社では、1年生のうち
に身につけた学習習慣・生活習慣をさ
らに盤石なものにするとともに、自ら
進んで学び、考える力を身につけても
らうための指導を行います。さまざま
な出会いや知識に触れる中で好奇心を
育み、学ぶことへの楽しさを伝えるこ
とで、勉強の継続性、学力の向上へ結
びつけていきます。



臨海学校

自然の中で学ぶ体験学習。

関東近郊の海辺で、水泳や自然観察など趣向を凝らしたアクティビティを体験。都会生活から離れて、たくましくなって帰ってきます。

夏期特別講習・補習(1~2年)



2学期を円滑にスタートさせるために。
夏期休暇中(8月下旬の5日間)に、国語・数学・英語の3教科について特別講習を実施。努力不足の生徒は指名制で補習も行います。

自由研究発表会(1~2年)



50年以上続く伝統行事。

夏休みの課題に自分でテーマを決め、調査・研究の成果を2学期初めに競い合います。半世紀前から行われている「アクティブラーニング」です。

2年生の
主な行事



小 学校時代の仲の良い友人たち
と別れ、中学校という新た
なステージへ進む時。生徒たちは激
変した環境や人間関係の中で戸惑いを
感じています。攻玉社ではこの頃の生
徒たちに親身に接し、きめ細やかな指
導と教育を施すことでこのギャップを
丁寧埋めていきます。そして、授
業、クラブ活動、行事などバランスの
取れたカリキュラムのなかで、基本
的な学習習慣や生活習慣の確立を促しま
す。正しい習慣を身につけさせ、生徒
の将来への伸びしろを引き出していく
ために大切な準備期間です。

YOU CAN CHANGE
「キミはきっと変わる」。教員たち
の指導のもとで、生徒たちは才能の
芽を静かに育むことでしょう。



【1年生 可能性を見出し 自信を引き出す】

「児童」から「生徒」へ呼称も変わり、思春期が始まるこの年齢。
しっかりとした人格を形成し、学習習慣を身につけるには非常に重要な期間です。
攻玉社では、まだまだ発達途中の生徒をしっかりと導くための親身な指導を行います。

You Can Change.



入学式



攻玉社男子への道はここから始まる。

入学した生徒全員が、ここから始まる6年間に有意義に
過ごし、立派な攻玉社男子へと成長できることを願い、
教職員・在校生一同より祝福と激励の気持ちを込めて
式典を開催します。

林間学校



心身の健全な発育のために。

豊かな大自然に囲まれた長野県の志賀高原で実施。
自然の中でのさまざまな活動を通じて、仲間との絆を深めます。

新入生オリエンテーション

6年を共に過ごす仲間との出会い。

入学したての生徒に、校史・建学の精神・学校生
活の過ごし方などをレクチャー。仲間づくりの
きっかけとなる多彩なプログラムも実施します。



1年生の
主な行事



中 学生から高校生へ、新たなステージへと羽ばたくこの年。中高一貫の攻玉社では、慣れ親しんだ仲間たちとともに、新たな3年間へ向けて踏み出すことができます。ここで育まれる絆と、親しい仲間と切磋琢磨して成長した経験はまさしく一生ものと言えるでしょう。

この時期、攻玉社では生徒の可能性をさらに高めていくために、自らの課題を発見・解決していくために必要な力を育む指導を行います。社会で活躍できる人材としての基礎力を身につけるとともに、5年生から始まる本格的な受験対策に向けて、自分の目標・ビジョンを明確化させていきます。

公 立校の中学生なら、受験や進路に大いに悩むこの時期。高校進学のための受験勉強がない分、そうした負担やストレスは軽減されているはず。しかし、自動的に高校生へとステップアップするのではなく、さらに先にある目標を見据え、そこへと向かう道筋を描いて進級してもらうために、攻玉社では主体性を身につける指導を施します。社会人として活躍しているOBを招いて講演会を行うなど、キャリアについて考える機会を与え、生徒それぞれが具体的なビジョンを描くためのフォロー体制を築いています。

YOU CAN CHANGE から、**I CAN CHANGE** へ。人間性の飛躍を迎えるタイミングです。



【4年生 課題を見つけ 解決する力を鍛える】



【3年生 自ら考え 行動する意識を育む】



STAGE
2
教養と学力、そして
主体性を身につける
15 歳 ~ 16 歳

ステージ1での2年間を経て、攻玉社での生活にも慣れ、学びへの基本的な姿勢も身につけてくる時期です。ステージ2では、主体性や自律性を大切にしなが、生徒それぞれの個性や強みを伸ばしていきます。

I Can Change.

校外授業 (1~3年生)

3年生の
主な行事



芸術科合同発表会

芸術に触れて、感性を高める。
芸術科目の集大成。美術・書道それぞれの作品を
展示、音楽では演奏を披露します。

修学旅行



大切な友達と一生の思い出を。
三重・奈良・京都方面で歴史や文化に触れる5日間。仲間
とともに最高の思い出をつくるイベントでもあります。

進路講演会 (4~5年)



大学受験の最新情報をプロが解説。
予備校の講師等をお招きし、難関大学の動向や文系・理
系・医系に分かれて講演があります。保護者も参加する
ことができます。

スキー学校



健康で強い身体づくりのために。
長野県北志賀竜王スキーパークで実施。ウィンタース
ポーツを通じて健全な身体づくりを目指します。



歴史や文化を学び、教養を高める。
学年ごとに美術館、博物館、歴史的建造物や文化
施設などを訪問。さまざまなものに直接触れるこ
とで教養を身につけ、人間力を高めます。

選択講座 (総合的な探究の時間)



生徒の興味、関心に応じて
多彩な講座を用意。
選択講座では教科、科目ごとの授業で習得した知
識を総合的に活用することを目的としており、レ
ポートや小テスト等により評価します。また、講座
は多岐にわたり、一人ひとりの生徒が興味・関心
に応じて選択できるようになっています。

キャリアガイダンス講演会 (3~4年)



OBを招き、「働くこと」について考える
「働くこととは何か」や「進路をどのように決定する
か」などを3年生から4年生にかけて考えていきま
す。また、社会の中堅として活躍しているOBを招
き、本校での思い出や進路選択のこと、また社会人
としての経験談などを話してもらいます。講演後
には質疑応答も行われます。

4年生の
主な行事

【6年生 自分の可能性を切り拓く力を高める】



いよいよ最終学年。受験へ向けてスパートをかける時期です。攻玉社では進路指導室での指導を徹底し、生徒に各種情報を伝え、激励し、志望校の選択や進学先の決定の相談に乗っています。受験生にとって天下分け目と言われる夏休みには特別講習を開催するなど、自己実現へむけた生徒たちの挑戦を促します。大学に合格・入学することはゴールではなく更なる未来への出発であることも強調しています。

生徒たちは、中学1年生から一緒に頑張ってきた仲間たちと共に、支え合い、励まし合いながら、攻玉社男子としての誇りを胸に未来へ向けて進んでいきます。

【5年生 リーダーシップや協調性を身につける】

志望校への受験対策はもちろん、生徒一人ひとりの人生を充実したものにするために、10年後、20年後を見据えた教育指導を実施。攻玉社男子としての人間力を高めます。

CHANGE IT! We Can Change.



5年生の
主な行事

第5学年対象講演会

将来を見つめる大切なひととき。

実社会で活躍する比較的若いOB(文系・理系各1名ずつ)を招聘。将来設計の糧とすべく「自己実現のためにいかに取り組んだか」「働くということはどういうことか」などの話を聞きます。

大学先輩に聞く会 (5～6年生)

より確実に志望校に受かるために。
先輩たちからアドバイス。

大学合格を果たしたばかりの卒業生から合格体験談や勉強法を聞く機会を設けています。5・6学年のクラスごとに数名ずつの先輩がそれぞれ教室を訪問し、入試のホットな話題などを聞くことができます。



未来へ向かって 羽ばたく準備を整える 17歳～18歳

STAGE
3



より確実な大学受験合格を目指して、
生徒それぞれに適切な講習を。

高校最後の夏休みを利用して、希望者を募り、講習を開催し、弱点の補強・得意科目の伸長をサポートします。

6年生の
主な行事



卒業式



一人の攻玉社男子として新たな世界へ。
苦楽を共にした仲間と別れ、それぞれの思いを胸に新しい世界へ踏み出します。攻玉社男子としての人間力は必ず次のステージでも役立ちます。

グローバル化が急速に進む昨今、語学力や国際教養は欠かせない資質となっています。攻玉社では、より実践的な英語教育を施すことにより、世界で活躍できる人材の育成を目指します。

世界の海を股に掛ける 攻玉社男子のDNAを



帰国生の受け入れ— 国際学級

世界各国からさまざまな文化を経験した生徒が集まります。

攻玉社では四半世紀以上前からグローバル化に対応できる人材を育てるために、帰国生の受け入れも積極的に行っています。さまざまな文化背景を持った帰国生が集まり、日常的に英会話も飛び交う国際色豊かな学校生活は、一般学級の生徒たちにも大いに刺激になっています。

帰国生のためのクラスで、徐々に日本に順応

日本での学校生活に馴染みづらい帰国生。そんな不安を考慮して、国際学級は3年間同一クラス。自然と学校生活に馴染めるように配慮しています。そして、日本に慣れてきた4年次から一般学級のクラスと統合します。

生徒のレベルに応じて分割授業でフォロー

主要3教科は分割授業を実施しています。得意科目はそのレベルをさらに伸ばせるように、不得意科目は基礎から親身に指導しています。高校卒業時には一般学級の生徒と同様に大学受験に対応できるようになります。

きめ細かいフォローで難関大学現役合格多数

帰国生のための分割授業や5年次からはじまる卒業後の志望校に応じた少人数のクラス編成など、本校独自のカリキュラムに基づいた効果的な受験対策を講じることで、例年、多数の難関大学への合格を実現しています。

帰国生は3年間
独立クラス

国数英の主要3教科は
分割授業

難関大学への
高い合格率

ネイティブによる英語授業

コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が求められる時代、英語はコミュニケーションの手段として今後ますます重要になります。現在、中学1・2年生に対して週に1時間、クラスを分割してネイティブ教師による英会話の授業を行っています。本場の英語に触れることで、ネイティブに近い感覚を身につけます。



海外語学研修

8月の2週間、ホームステイもかねて海外語学研修を実施。中学3年生と高校1年生の希望者約40名が参加します。さまざまな国の文化や歴史、考え方やライフスタイルなどを実体験を通して深く知ること、将来世界で活躍するための国際的な教養や人間力を養います。今年度は昨年同様、オーストラリアでの海外語学研修を予定しています。



効果的な英語授業の実践

必要な情報を早く正確に読み取るための読解力や、英作文での表現力を身につけさせるために、中学段階を中心に小テストを繰り返し実施。英語力の基礎となる語彙・文法・構文を早い段階から定着させます。受験を見据えた高校段階では、培ってきた基礎を活かし、より実践的な読解力・表現力を養成。生徒の実力を効率的、効果的に伸ばしていきます。



英語暗誦大会(中学1・3年)

英会話の授業では、自分の意思を英語で伝達する姿勢を大切にしており、その成果が英語暗誦大会で発揮されます。クラスの代表がみんなの前で暗誦し、熱いスピーチ合戦が繰り広げられます。また、当日は国際学級の生徒たちが司会を務め、モデルスピーチを披露します。英語でコミュニケーションを取る場を設けることで、実践的な英語力を高めていきます。



大学進学はゴールではありません。自分が社会でどうありたいのかを考え、それを実現する手段として進学先を選ぶことが大切です。攻玉社では、入学後早い段階から卒業後の進学と、その先の未来を意識した進路指導を行うことで、生徒に目的意識を持った勉強を促しています。



「その先」を意識した6年間

多彩なプログラムで
キャリアイメージ形成と学力向上を
サポートします。

夏期特別講習

学力推移調査

校内実力試験

外部模試

キャリアガイダンス講演会(3・4年生)

大学先輩に聞く会(5・6年生)

進路講演会(4・5年生)

第5学年対象講演会(5年生)

Career Design

年間進路指導スケジュール

	高等学校(4～6年生)	中学校(1～3年)
4月	大学先輩に聞く会(5・6年生)	学力推移調査(1年生)
5月	進路講演会 外部模試(4・5・6年生)	
6月	キャリアガイダンス講演会(4年生)	
7月	夢ナビライブ(4年生) 夏期特別講習(4・5・6年生)	夏期特別講習(3年生)
8月		夏期特別講習・補習(1・2年生)
9月	大学入学共通テスト出願説明会 校内実力試験(4年生) 外部模試(5・6年生)	校内実力試験(1・2・3年生)
10月	進路講演会 外部模試(4・5・6年生)	
11月	外部模試(6年生)	キャリアガイダンス講演会(3年生)
12月		
1月	(大学入学共通テスト) 外部模試(5年生)	外部模試(2・3年生)
2月	(私立大学入試・国立大学前期試験) キャリアガイダンス講演会(4年生) 外部模試(4・5年生)	キャリアガイダンス講演会(3年生)
3月	(国公立大学後期試験)	

勉強も部活も全力で取り組んだ6年間

攻玉社で過ごした6年間はとても充実したものでした。国際学級では3年間、英語力を伸ばしつつ他の科目もしっかりと学習することができ、勉強も部活も遊びも全力でやる同級生に多くの刺激を受けました。高3の6月まで所属したサッカー部では、受験においてはもちろん、将来にも活きるようなメンタル、成功体験を得ることができ、大切な仲間も沢山できました。素晴らしい先生方や同級生に恵まれ、この6年間、楽しく有意義な学校生活を送ることができた事に感謝しています。

東京大学
文科Ⅱ類

西川 雄翔くん
サッカー部所属



早稲田大学
教育学部

福永 智希くん
バスケットボール部所属



東京大学
理科Ⅱ類

蔵田 渉くん
コンピュータ部所属



東京医科歯科大学
医学部

工藤 佳祐くん
卓球部所属



自ら考え、自ら行動する力を身に付ける

私は全くの初心者ながら友人の誘いでバスケットボール部に入部したため、中学1年生のころはほとんど試合に出場することは出来ませんでした。その悔しさをばねに練習開始の1時間以上前に体育館に行き、自分なりに試行錯誤しながら自主練を続けたところ、スタメンに定着することができました。その自分で考え工夫し実践する経験は、受験においてもかなり役に立ちました。男子しかいないため、生徒も先生もいい意味で実力至上主義であり、まじめに努力し、結果を残すことができたならば、その分だけ正当な評価を得ることが出来ます。それだけ単純な環境に身を置くことができたからこそ自分は部活動、勉強、どちらにおいても充実した6年間を過ごすことができました。

仲間とともに過ごした充実した6年間

攻玉社には勉強はもちろん、部活動や輝玉祭への準備などの課外活動にも没頭できる環境がありました。特に高2と高3の2年間はクラス替えのない文理別のクラスとなり、それまでより一層熱心かつ丁寧に教えて下さる先生方や、同じ目標に向かって勉強を教え合うことができる仲間たちといった、非常に心強いサポートを受けて学校生活を送れました。また、クラス全体を明るくしようという主体的な活動が盛んに行われ、受験期には精神的にも大いに助けられました。進学校として受験勉強にしか力を入れないといったことは全くなく、むしろその副産物として得たものがとても大きかった6年間だったと思います。

攻玉社の魅力である先生方からの「手厚いサポート」

高1になって模試が増えてくると、学校内だけでなく全国的に見ても自分の英語の成績が良くないことが目に見えてわかり焦りを感じました。そこで、英語の先生に自分の勉強法の問題点やお勧めの参考書を教えてもらい勉強していくと、英語の成績が伸びていくようになりました。また、医学部が必要となる小論文の対策について国語の先生に質問していたところ、夏期講習では医学部対策の小論文の講座を開いてくださり、受験直前には、解いた小論文を渡すと、すぐに丁寧に添削してくれました。授業外でも丁寧にやさしく対応してくださる先生が多くいらっしゃるって勉強だけでなく様々なサポートをしてもらえました。

主 な 学 校 行 事

4	始業式
	入学式
	健康診断
	新入生校外オリエンテーション
5	耐久歩行大会
	生徒総会
	防災訓練
	中間試験
6	芸術鑑賞
	5年講演会
	期末試験
	終業式
7	1年林間学校
	2年臨海学校
	3～6年特別講習
	海外語学研修
8	夏期部活動合宿
	1～2年特別講習・補習
	始業式
	防災訓練
9	中学自由研究発表会
	輝玉祭(学園祭)
	体育大会
	中間試験
10	4年修学旅行
	1～3年校外授業
	防災訓練
	期末試験
11	終業式
	始業式
	3年スキー学校
	中学校入学試験
12	4年芸術科合同発表会
	中学英語暗誦大会
	学年末試験
	卒業式
3	修了式

体 育 大 会

競技を通して仲間との
協調性や競争力を培います。

チームを組んでひとつの目標へ向けて挑戦する中で、人間関係の大切さを学びます。また、体育大会本番に向けての練習や準備を通じて強い心身、規律性を養います。生徒達も体育大会に懸ける想いや情熱は強く、競技はとても白熱し、毎年、さまざまなドラマが生まれます。体育大会を仲間と共に戦い抜いた後に得られる充実感や達成感も格別。仲間との絆もさらに深まり、勉強だけでは体験できない、学生生活ならではの特別な思い出を作ることができます。



耐 久 歩 行 大 会

自然を満喫しながら、
持続力、持久力を養います。

横浜の多摩丘陵にある、こどもの国で実施します。中学生は16キロ、高校生は20キロを歩き、山林の豊かな自然に触れながら、壮健な身体と逞しい精神力を養います。また、普段は経験することのない長距離を歩き、ゴールした後の達成感を味わうことは、頑張ることの意義や楽しさを知るきっかけにもなり、受験勉強や部活動へ粘り強さを生み出します。



青春を彩るさまざまな学校行事 攻玉社男子としての心身を鍛える

輝 玉 祭

想像力、発想力を磨き、
リーダーシップを身につけます。

毎年秋に開催される学園祭「輝玉祭」は、本校最大のイベントです。各種参加団体の趣向を凝らしたイベントや展示で大いに盛り上がり、本校の公開行事として毎年2日間で1万名以上の入場者を数えます。イベントや展示に関しては実行委員会を中心に先輩、後輩が学年の垣根を越えて協力しています。企画・運営共に生徒が主体となっており、自主性やリーダーシップを養います。また、当日は受験生・保護者向けの相談コーナーや食堂開放も行っています。



文化・共用施設



生物実験室

生物の授業や部活動で使します。動植物の実験や観察を行います。



図書室

蔵書3万冊を数える図書室は、新聞や最新の雑誌類も豊富に取り揃えられています。



情報科教室

最新のパソコン50台が設置されています。情報・技術の授業で使用されます。



自習室

70名分の個別ブースが用意されており、放課後などの自学自習に自由に利用できます。



講堂

可動式の座席430席が格納されており、生徒集会や講演会など、行事や式典に使用されます。



標本室

多数の動物や昆虫などの標本や模型類を陳列し、教材として使用しています。



カウンセリングルーム

学校生活や人間関係での悩みを相談できる環境も完備しています。



食堂・売店

昼休みに生徒の憩いの場として開放されます。食事をしたり談笑を楽しんだりと生徒がそれぞれの時間を過ごします。



生徒ホール

昼食時は食堂として使用。その他の時間はホールとして生徒に開放されています。



音楽室

音響設備も整えられ、グランドピアノをはじめ、さまざまな楽器類が備えられています。



CALL教室

パソコンや映像機器を用いて英語学習ができる環境を整えています。



学園資料展示室

創立者・近藤真琴先生の貴重な資料類のほか、本校にまつわる歴史的な資料や写真等が展示されています。



家庭科教室

ガスレンジや流し台が完備されている家庭科教室は、調理実習の授業に使用されます。



美術室

絵画などの美術の授業や放課後の美術部の活動で利用します。



書道室

毛筆指導に対応すべく、筆を洗うための流し場が設置されています。

充実した教育施設
生徒に最高の学習環境を

生徒の学習意欲を引き出し、生徒一人ひとりの個性や学力を伸ばすためには、学習環境への配慮も大切です。本校では、生徒たちに6年間のスクールライフを豊かに過ごしてもらうために、各教室の設備をはじめ、蔵書3万冊を超える図書室の設置など学習環境づくりにも力を入れています。



スポーツ施設



室内温水プール

1年中泳げる温水プール。25メートルで6コースあります。水泳部の活動も大変盛んです。



柔道場

冷暖房完備。中学3年次より武道の選択授業として柔道の授業が行われます。



トレーニングルーム

運動部員たちの身体づくりのためにさまざまなトレーニングマシンを設置しています。



屋内運動場

雨天でも使用できる運動場として、体育の授業や放課後の部活動で利用します。



剣道場

冷暖房完備。中学3年次より武道の選択授業として剣道の授業が行われます。



卓球場

卓球部の練習や体育の授業に使用します。全8台の卓球台を設置しています。



グラウンド

授業で使用されるほか、昼休みには生徒たちに開放されます。放課後にはスポーツ部を中心としてクラブ活動に使用されます。



野球場

「鶯の木グラウンド(東急多摩川線・鶯の木駅下車・徒歩約7分)」本校占有の野球場です。野球部の練習に利用しています。



体育館

バスケットコート2面分の広さがあり、体育の授業や部活動に使用されます。

文化部・同好会

感性を磨く

攻玉社にはさまざまな種類の文化部や同好会が揃っています。興味のある分野を思う存分追究し、知見を深め、感性を養うことができます。



理化学部



攻玉社ボランティア部



写真部



バスケットボール部



陸上競技部



バレーボール部



ソフトテニス部



レゴ部



将棋部



サッカー部



硬式野球部



バドミントン部



コンピュータ部



吹奏楽部



美術部



ガンダム研究部



生物部



歴史研究部



水泳部



テニス部



柔道部



生物部



鉄道研究部



卓球部



剣道部



スキー部

運動部

心技体を鍛えぬく
充実した施設環境のもとで部活に打ち込むことが可能。仲間と共に挑戦し、青春を彩り、強い身体と精神力を育みます。

愛好会

- ◎ メディア研究愛好会
- ◎ 囲碁愛好会
- ◎ 数学研究愛好会
- ◎ 地政学研究愛好会
- ◎ クイズ研究愛好会
- ◎ インディアカ愛好会
- ◎ 折り紙愛好会
- ◎ AAA (Academic Ability Agency)

同好会

- ◎ 放送同好会
- ◎ 英語ディベート同好会
- ◎ トレッキング同好会

※2021年度に活動したクラブです。クラブの活動状況につきましては、別冊DATE BOOKやホームページを併せてご覧ください。

他山の石以て 玉を攻くべし

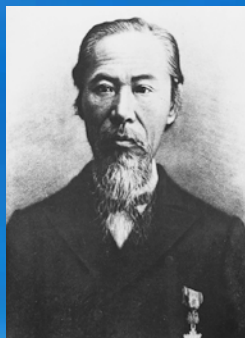
攻玉社を創立したのは、福沢諭吉・新島襄・中村正直らと並び明治六大教育者の一人とされる近藤真琴先生（1831～1886）です。幕末の動乱期にいち早く時勢を見抜いてオランダ語を学び、西洋近代の学問や技術に熟達。日本で最初のかな書き辞書「ことばのその」や、翻訳SF小説の第1号「新未来記」は先生の手になるもので、学者としての幅広い活躍の一端がうかがわれます。

文久3年（1863年）。その教えを請う者たちの求めに応じて、近藤先生は江戸四谷坂町の鳥羽藩邸内の自宅に私塾（後の「攻玉塾」）を興しました。塾生は20名ほど。創立当初の攻玉塾は理数系の塾として、福沢諭吉の慶應義塾、中村正直の同人社とともに東京の三大義塾の一つに数えられました。この私塾こそが、以来1世紀半にも及ぶ本校の歴史の始まりです。「攻玉」とは、詩経の『他山の石以て玉を攻（み）くべし』から引用したもので、これが本校の建学の精神です。

本校からは、近代日本へと発展する原動力となった幾多の人材が巣立ちました。太平洋戦争

の終戦時に総理大臣をつとめた鈴木貫太郎もその一人です。

関東大震災後の不動ヶ丘への移転、経済不況の中での経営改革、太平洋戦争時の空襲による被災など、その都度、時代の大きな困難を乗り越えて教育体制の整備を実現できたのは、その底流に「攻玉社」の伝統と近藤先生の建学の理念が脈々と生きていたからです。



近藤先生の手による日本で最初のかな書き辞書「ことばのその」は今も当校の資料室に保管されています。

江戸末期に蘭学者の近藤真琴によって創設された私塾をルーツに持つのが、攻玉社中学校・高等学校です。

攻玉社という学校名は、詩経の「他山の石以て玉を攻（み）くべし」から引用したもので、これがそのまま本校の建学の精神にもなっています。周りから刺激を受けて自分の長所を伸ばす、つまり切磋琢磨する学校だということです。

そのためには、同じタイプの生徒ばかりでは互いに刺激になりません。ですから本校では多様性を重視しています。そして、その大きな役割を担っているのが、1990年に設置した国際学級です。本校の生徒たちは、自分とは違う価値観を知ること、その違いを尊重し、認め合うようになるのです。

多様性を認めながら

切磋琢磨し、人格を育み

磨き上げる6年間で

また本校は進学校でありながら、クラブ活動が非常に盛んな点も大きな特徴です。

文武両道というと全国大会や関東大会にも出場経験のある運動部が目立ちますが、ユニークな文化部も数多くあり、かけがえのない仲間との居場所づくりに役立っています。

男子の能力は中高6年間のどこで開花するかわかりません。

「誠意・礼讓・質実剛健」の精神を身につけた攻玉社男子が、卒業した後も伸びる素地をつくるのが本校の6年間であると自負しています。

攻玉社の6年間で、自分の潜在能力を引き出すために、切磋琢磨されることを切に願っています。

学校長 岡田 貴之

1964年11月 東京都生まれ
1988年 3月 早稲田大学教育学部卒業
1990年 4月 攻玉社中学校・高等学校 教諭
2016年 4月 同校 高校教頭
2019年 4月 同校 教頭・広報企画部長
2020年10月 同校 校長

創立者 近藤 真琴 先生（1831～1886）

天保2年（1831年）に鳥羽藩士近藤家の次男として、江戸麹町の鳥羽藩上屋敷に誕生。早くに父を亡くすが、教育熱心な母から漢籍の素読を受けて育ち、成人してからは蘭学、数学、航海・測量術、兵学などのほか、独学で英語やドイツ語をも習得するなど、博学多才の士として我が国の教育界に大きな業績を残した。

